

下鴨神社だより

行事日程

- 平成27年下半年行事
 - 10月9日 えと祈願祭 (午後1時～)
 - 12月12日 お菓酒神事 (午後1時半～)
- 平成28年上半年行事
 - 1月1日 歳旦祭 (午前6時～)
 - 1月4日 蹴鞠初め (午後1時半～)



- 1月10日 成人祭 (午後1時半～)
- 1月15日 初えと祭 (午前11時～)
- 2月3日 節分祭 (午前10時～)
- 3月3日 雛流し (午前10時半～)

事務局だより

会議報告

平成27年4月1日より9月30日まで

◆第12回理事会

月日…平成27年6月10日
場所…主たる事務所
出席…理事・監事

決議事項…

- 河合神社御蔭神社等修理及周辺整備助成準備資金取扱要領制定の件
 - 展覧会講演会等事業準備資金取扱要領制定の件
 - 自平成26年4月1日至平成27年3月31日 事業報告の件
 - 自平成26年4月1日至平成27年3月31日 決算の件
 - 定時評議員会招集の件
 - 会計処理規程準則の一部変更の件
- 報告事項…
- 理事退任の報告
 - 理事選任の報告
 - 理事長および専務理事の職務執行の報告
 - 会員数の報告

◆第7回評議員会

月日…平成27年6月25日
場所…主たる事務所
出席…評議員

報告事項…

- 評議員の辞任の件

②自平成26年4月1日至平成27年3月31日 事業報告について
決議事項…

- 自平成26年4月1日至平成27年3月31日 決算について
- 理事の選任の件

会員数報告 (平成27年9月1日現在)

賛助会員	62件
団体・法人会員	45件
個人会員	1,172名
合計	1,279件

新役員紹介

6月の理事会・評議員会にて、第4期の理事として重任22名新任1名計23名が選任されました。

・新任理事 久芳 徹夫氏
(京セラ株式会社 代表取締役会長)
名簿は財団ホームページに掲載してありますので、ご覧下さい。

新入会員ご誘致のお願い

多くの方に世界遺産糺の森の保存にご理解ご協力をいただきたく願っております。新入会員のご誘致をよろしくお願いいたします。ご連絡いただければ「入会案内パンフレット」をお届けいたします。

ご寄付のお願い

平成26年度も多くの皆様にご寄付をいただき、糺の森の整備・神社建造物の修復を実施することができました。ありがとうございました。平成27年度も引き続きましてご寄付をよろしくお願いいたします。同封の振込用紙をご利用ください。

糺の森



Vol. 12

糺の森財団会報
平成27年10月1日発行
通号60号

糺の森ふらりふらり 第11回
「半木の森」と「糺の森」
そして『連理の枝』
糺の森NEWS／催事案内

表紙写真／井上隆雄

編集・発行

公益財団法人
世界遺産賀茂御祖神社境内糺の森保存会事務局
〒606-0807 京都市左京区下鴨泉川町59 賀茂御祖神社内 ☎075-781-0010
www.tadasunomori.or.jp

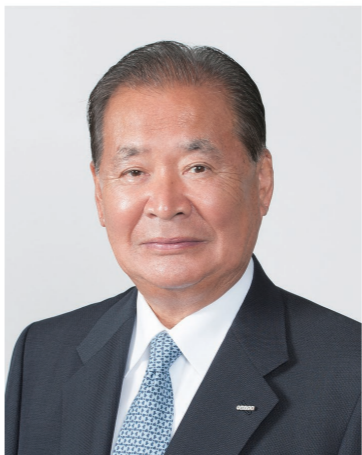


題字
賀茂御祖神社
新木直人宮司

糺の森財団

理事 立石 義雄

(オムロン株式会社 名誉会長)



賀茂御祖神社(下鴨神社)に平安時代より伝わる、第三十四回式年遷宮の遷座祭が四月二十七日に、また奉幣祭が翌二十八日に、勅使のご参向を仰ぎ、厳肅かつ盛大に斎行されました由、御同慶の至りに存じます。
当糺の森財団では、下鴨神社が有する、国宝・重要文化財建造物をはじめ、平安京以前の原生樹林と同じ植生を残す史跡「糺の森」の保存継承を目標に、長年に亘り募金活動を実施しております。現在、私が会頭を務める京都商工会議所では、昭和四十八年の第三十二回、平成六年の第三十三回の式年遷宮にも募金協力を行った経緯があり、この度の式年遷宮に際しましても、各位にご支援のお願いを致した処、多大なご協賛を賜りました事につきまして、厚く御礼を申し上げます。

さて、下鴨神社では国宝本殿の修理が完了した後も、継続して遷宮事業である社殿の修理や、糺の森整備等が実施されており、また、来年度には新たに国史跡として指定される「御蔭神社境内」の整備も予定されており、事業の完遂には未だ時間と費用を要します。目まぐるしい時代の変化の中で、忘れてはならないのは、自然や文化財、伝統を守り伝える先人達の心を絶やさずことなく持ち続け、後の世代に継承することではないでしょうか。

そのために私たち糺の森財団が行う様々な事業を通じて、二十一年後の次回(平成四十八年)の遷宮、そしてまた次回へと、継承の思いを託したバトンを繋いでまいりたいと思います。皆様におかれましては、当財団の活動をご理解いただき、今後ともご支援を賜りたく重ねてお願い申し上げます。

「半木の森」と「糺の森」

そして『連理の枝』

京都府立大学客員教授

京都府立植物園名誉園長

松谷 茂

で、山城盆地の自然植生をうかがい知ることのできる貴重な空間なのだが、実のところその実態はよくわかっていなかった。

賀茂御祖神社(下鴨神社)と賀茂別雷神社(上賀茂神社)のほとんど中間点に「半木神社」が鎮座している。上賀茂神社の境外末社である「半木神社」は、山城名勝志(大島武好、1705年(宝永2))に「流木神社」として由来とともに掲載されているから、すでに江戸時代にはこの地に存在していたことになる。
京都府立植物園内にある「半木神社」を取り囲む「半木の森」は、約5,500㎡と決して広くはないが、植物園誌(昭和34年、京都府企画管理部)によれば、「下鴨の地に残された唯一の自然林でこの中央に流木神社があるが」とある。京都の市街の平坦地にある自然林

半木の森



糺の森
ぶらりぶらり
第十一回

見られないことに大いなる危機感を覚えた。

植物園には、山城盆地の自然植生は後世に残さなければならぬ義務があり、それが出来るのは公的機関である植物園だけである。そのためにはムクノキ、エノキなど原植生後継稚樹の成長を阻害する常緑樹を強制伐採することもいとわず実践してほしい。京都の自然遺産を守るために必要な措置である、などと提言した。

「半木の森」がまだ一般的に周知されていないことを理解するもの、私としては、その貴重さについて率先して普及啓発していかないと、と感じている。

さて「糺の森」、この森がいかに貴重な自然であるかは、すでに多くの研究者が多角的に論じているところであるが、森林構造のゆっくりではあるが日々動いている中味について、「半木の森」の実態と実によく似ていると、参道を歩いた際に感じる。

森林を支える最も大切な地下部の根の分布実態を見たいと思っていたが、神宮寺発掘調査に際し、ついに観察することができた。



賀茂御祖神社・根

地上部の空間における光獲得のための枝張り競争、地上部のとつともなく重い樹体を保持するために必要な地下部根系の、特に横に走る根張り競争、これらの長期間にわたる樹木同士のバトルの結果、自然は維持される。

貴重な自然を守ることに對して世間のすべては総論賛成だが、その自然を維持する関係者の苦勞や努力は意外と一般に知られていない。

動きのゆるい自然の営みの実はすばらしい驚異について、世間的合意が得られるよう打って出ないと、と発掘現場が教えてくれた。

糺の森 NEWS

発行所 公益財団法人
世界遺産賀茂御祖神社境内
糺の森保存会事務局
www.tadasunomori.or.jp

助成対象 文化財建造物修理事業

重要文化財「供御所」保存修理実施中

境内の西側に建つ重要文化財「供御所」は、平面積が103坪あり、下鴨神社では最大規模の建造物です。室内は東、中、西の3間に分かれており、東の間を「供御所」と呼び神饌の調理を、中の間は「費殿」で魚介鳥類の調理を、そして西の間は神官等が参集し、直会などを行う待所という機能を持っています。近年は結婚式など多目的に使用されており、その様相は過去とは異なります。

供御所は桁行9間、梁間3間の細長い



素屋根が組まれる供御所



傷みが激しい檜皮屋根



裏甲の補修



棟札が入った箱

建造物で、屋根は入母屋造の檜皮葺きです。他の重要文化財社殿と同様に寛永6(1829)年に建造されて以降、修理工事が繰り返して行われて現在に至ります。この度、第34回式年遷宮の事業として、約40年ぶりに保存修理工事が実施されています。檜皮屋根の葺き替えや、腐食した木部の補修、銹金具の修繕をはじめ、室内の建具や畳などの修理、新調も行います。屋根を間近で見ると、風雨により著しく損傷しています。一部の檜皮は剥がれ

落ちて、下の木部が見えており、雨水による浸食が進んでいます。屋根の軒回りにある裏甲と呼ばれる木部にも雨水による腐食がみられたので、大部分を新しい材料で補修する必要が生じました。檜皮をめくったことで、約40年ぶりに光が射した屋根裏からは、箱に入った棟札2枚が発見されました。棟札はそれぞれ、大正5年と昭和11年に実施された修理の内容を示すものでした。下鴨神社の社殿や森は、昭和9年9月に襲来した室戸台風により甚大な被害を受けておりますが、昭和11年の棟札は、台風の暴風による倒木で大破した為に、当時の内務省直轄で修理工事が実施されたことや、その内容についても記されていました。供御所の屋根葺き替えは年内に終了する予定なので、正月には綺麗な姿に修繕されます。

さて、話題を変えて「連理の枝」。唐の詩人白居易(772-846)の、玄宗皇帝と楊貴妃との愛を詠った「長恨歌」に『天にあっては願わくは比翼の鳥となり、地にあっては願わくは連理の枝とならん』に登場する有名な一節であるが、伝説上の樹木とされている。しかし、この「連理の枝」が両神社に存在することを知って、これは偶然ではなく、神社があるが故の必然のような気がするのはいき目に見る私だけだろうか。

「半木神社」のすぐ東にあって、モミの主幹にムクノキの枝が高さ約35mの位置で完全密着、これを私は「真正連理の枝」と呼んでいる。モミは常緑性の針葉樹、エノキは落葉性の広葉樹、正に男と女。



半木の森『連理の枝』

「賀茂御祖神社」楼門の手前左手(西側)、縁結びの神として知られる「相生社」にあるのが「連理の賢木」。高さ約2mの位置で一本の幹が寄り添うようにもう一本の幹に完全密着。ここにある三本はシリブカガシという常緑性の広葉樹。日本でドングリのなる種類としては唯一秋に花が咲く珍しい樹種で、開花・受粉から一年かかってドングリは完熟する。秋になって落ちたドングリのお尻を是非とも観察されたい。噴火口ほどではないがややある凹みが見て取れ、これが和名・シリブカガシの由来「尻深壑」となっている。もうひとつの楽しみは、ドングリの黒っぽい表面を布などで思いっきりこすってみると、表面に吹く白い粉が取れ、ピカピカ輝く黒ダイヤに大変身すること。これはお守りにするしかない。



賀茂御祖神社 相生社 『連理の賢木』

第34回式年遷宮が無事終了



平成19年から社殿の修理や糺の森の整備など取り組みが始まった式年遷宮。以降数々の神事が行われ、平成25年からは国宝本殿

の修理工事と殿内調度品や御神宝等の新調・修理作業が始まり、そして本年平成27年4月27日に、神様に新しくなった本殿にお遷りいただく「遷座祭」が執り行われ、翌28日には天皇陛下からの賜りものである御幣物を神前に供える「奉幣祭」が営まれ、式年遷宮が無事行われました。その後の「一般昇殿参拜」には約3万人もの参拝者がお越しになりました。

世界遺産糺の森文化講演会 開催

平成27年8月4日(火) 於・下鴨神社参集殿

今夏は昨年引き続き、小説家、エッセイストまた写真家として活躍中の夢枕獯氏をお迎え致しました。昨年「物語について」と題し語っていただいた、次の物語の構想に関する取材状況などをお話しいただきました。加えて参加された方々からの質問にも丁寧にお答えいただき、さながらファンの集いというような雰囲気の中で進行しました。

今回「縄文の旅人〜陰陽師式神のルーツ〜」と題しご講演頂いたのは、以下のような内容でした。



人間は、頭の中でドラマを作った人が生き延び進化してきた。何も感じない人は、生き延びていくことが出来ない。人間は作家になる為に進化してきたと言える。

縄文人は12000年の歴史を持っているが、文字を持っていなかったのだから、記録を残していない。しかし人間の集団なら、民俗の集団としての我々は何かの？どこから来たのか？という神話を必ず持っている。縄文人もそれらを持っていたのは間違いない。どういふ神話であったかを突き詰めていくと、式神というのが縄文時代の神様であったのではないかと思うようになった。縄文時代の神の姿をどこに行けば見られるかというと、青森県の三内丸山遺跡から数多く出土している、縄文土器や土偶がわかりやすくその姿を現している。三内丸山遺跡には巨大な集落が存在し、大きな貝塚がある。貝塚はこれまで言われているような単なるゴミ捨て場ではなく、貝や魚の骨は勿論、使った道具や人の骨まで様々なものが埋められている。もう一度再生を願ってそこに葬ったのではないかと

と思われる。

また、土偶は完全体で見つかることは非常に少ない。わざと壊したように見える。何故か？意見が分かれるところではある。壊した部分が再生への祈りであるという説が多く語られている。月との関連性で、縄文土器や土偶の謎はある程度解けると思っている。満ち欠けを繰り返す月は、縄文人にとっては再生へのシンボルであったのではないかとされている。

記紀にも縄文時代の神様の気配が残っている。神の気配を感じた時に言う言葉で、ものけの「もの」というのは神であり鬼である。どんなものにも神が宿っているという思いは、縄文時代から連綿と伝えられてきた文化であり、考え方であり、思想であろう。日本列島の中央構造線の底を流れているのが姫川である。この川が縄文時代になぜ重要かというと、当時は姫川でしか翡翠や黒曜石が取れなかったからである。それを間違いない人が運んで流通させていった。姫川から三内丸山まで、翡翠を運ぶルートを重ねていって、通行していくその土地、土地の神様との関わりを持ちながら、成長していく縄文人の若き商人の姿を書こうと思っている。縄文の神様は現代にも残っている。我々はそれを式神と呼んでいる。

式年遷宮の記念の年のメモリアル植樹

第25回 糺の森市民植樹祭



今年も4月29日(水)の昭和の日に開催。お天気にも恵まれ、約400名の市民が親子で参加し、糺の森後継樹のムク・エノキ・カツラ・ケヤキ・モミジの樹齢2〜3年の苗木500本を植樹いたしました。また成木の献木は26本(モミジ10本・ケヤキ4本・カツラ7本・エノキ3本・ムク2本)をいただきました。盛況の内に終了いたしました。

式典では千理事長様、新木宮司様からご挨拶、山田京都府知事様からご祝辞、また財団理事・学術顧問で京都学園大学教授の森本幸裕様から植樹のレクチャーをいただきました。運営にあたりましては、藤田造園様より苗木500本をご寄贈いただき、また林屋電気商会様・藤田造園様には設営等にご支援ご協力をいただきました。ご参加、ご協力いただいた皆様に感謝申し上げます。

成木献木者

(五十音順)

- 足立幸代 様 磯貝元啓 様
- 柳伊藤園 様 井上伸治 様
- 尾形文子 様 荻原一郎 様
- 鎌田容理子 様 川口周利 様
- 京都葵ライオンズクラブ 様
- 新造一夫 様 神藤雪江 様
- 千玄室 様 高崎秀夫 様
- 高田秀一 様 高橋敏弘 様
- 辻 建而 様 手島千恵子 様
- 床尾 卓 様 疋田 聡 様
- 樋口姫美子 様 福永晃三 様
- 牧内正哉 様 宮崎又行 様
- 山下康代 様 吉村亜紗子 様

緑の森に響く幅広いジャンルの音楽

春の糺の森コンサート「音の森」開催

恒例の「螢火の茶会」を今年も6月13日(土)に開催。重要文化財の細殿・橋殿に設けたお茶席には、当日ご入会の会員様82名も含め、財団会員などの招待客約800名の方が参席されました。当日の観光客は約4,000名、境内での争曲の演奏や雅楽舞、そして螢の舞いを楽しみました。螢は森の中に設けた散策路に夕暮れ時に放流、9時頃までゆっくりと鑑賞していただきました。

同時に楼門前参道にて開催された「糺の森納涼市」は、京の有名老舗など19店の出店があり、多くの買い物客で賑わいました。

- 〈お茶席・点心席奉納〉 裏千家前家元 千玄室様
- 〈お茶席奉仕〉 淡交会京都西支部様
- 〈点心席奉仕〉 本家尾張屋様
- 〈争曲奉仕〉 錦綾子社中様
- 〈十二単衣の着付と王朝舞〉 下鴨古楽会様
- 〈ご協力〉(敬称略・五十音順)
- (株)織部設備工業 ●岸野電気
- 松風園 ●西村工務店
- (有)林屋電気商会 ●(株)藤田造園
- (株)ワコールホールディングス

盛況に終了した螢と雅楽を楽しむ茶会 第25回 螢火の茶会と 糺の森納涼市

催事案内

遊び、学ぶ、糺の森のつどいあれこれ

世界遺産「京都下鴨神社展」

月日：11月4日(水)～10日(火)
場所：名鉄百貨店本館10階クローバーサロン(名古屋駅前)

参加：無料(自由)

※下鴨神社が所蔵する重要資料や装束・屏風などを展示する特別展覧会。今年が式年遷宮の奉祝行事として開催。



「秋の」糺の森コンサート「音の森」

月日：10月10日(土)、11月14日(土)
時間：午後2時～3時(予定)
場所：河合神社(糺の森南側)拜殿

参加：無料(自由)

※爽やかな季節に森で音楽を楽しむ「秋の」コンサート。幅広い内容を企画しています。ご家族やお友達と気軽にお越しください。



糺の森文化講演会<秋講座>

月日：12月6日(日)
場所：下鴨神社 参集殿(予定)
参加：無料 ※落語家の桂福丸氏を講師にお迎えし、講演と落語を予定しています。

詳細はホームページをご覧ください

- 糺の森財団 www.tadasunomori.or.jp
- 下鴨神社 www.shimogamo-jinja.or.jp

お問い合わせは糺の森財団事務局まで ☎075-781-0010

